

学びのアップデート

令和4年3月17日
臨時号②
東京都教育庁総務部
教育政策課

前号「学びのアップデート臨時号」では、「オンライン学習時の資料提示方法の工夫」、「オンラインでの学習方法の工夫」、「教室での授業に自宅にいる児童・生徒も参加する際の工夫」について例を示し、オンライン学習を円滑に行うためのポイントや手順を説明しました。本号では、前号で示したポイントや手順に合った、都内公立学校で行われた具体的な実践例を紹介します。

ここで紹介している実践例は全ての校種、学年、教科において、オンライン学習を行う様々な授業場面で幅広く応用ができるものです。この事例を参考にして、実際のオンライン学習に取り入れてみてください。

オンライン学習時の資料提示方法の工夫

オンラインで学習に参加する児童・生徒に対して、分かりやすい資料提示や説明を行うことが求められます。**資料の提示方法を工夫**して、オンラインでの学習活動を充実させることができます。

黒板にスライドを投影したオンライン学習（高校1年生 国語総合（古文））

① **オンライン学習開始前に必要な事項を板書**しておく。



【実践時の工夫】

黒背景に白文字で教科書本文を入力したスライドを作成し、プロジェクタでスライドを黒板に直接投影する。

② 説明しながら、**重要な事項のみ追加**で板書する。



【実践時の工夫】

教科書本文が投影されている黒板にチョークで板書し、文法について説明する。

【実践の成果】

自宅から学習に参加する生徒の端末でも見やすい板書を実現できた。

資料の提示に書画カメラを使ったオンライン学習（中学 1 年生 社会）

①事前に書画カメラの画像を端末に表示できるように接続する。



【実践時の工夫】

書画カメラで地図帳を投影し、書画カメラの映像を画面共有する。

②教科書、資料集やプリント等の実物を**書画カメラで投影**し、**書画カメラの映像を画面共有**する。実物の教材を示しながら学習を進める。



【実践時の工夫】

画面共有と、教員とスクリーンの両方が映る映像を、適宜切り替えて都市の場所を確認する。

【実践の成果】

生徒の端末には拡大された地図帳の映像が出てくることで、学習の理解を促すことができた。

プレゼンテーションソフトを使用して内容説明を行ったオンライン学習（小学 1 年生 国語）

①**プレゼンテーションソフトで作成した資料を画面共有**する。



【実践時の工夫】

プレゼンテーションソフトで学習の流れを示し、自宅にいる児童に画面共有を行う。

②画面共有している資料に**画面上で書き込み**をしながら学習を進める。



【実践時の工夫】

スライドへ追加の書き込みを行いながら、この後の活動の手順を説明する。

【実践の成果】

口頭の説明と視覚的な情報を組み合わせることで、自宅にいる児童にとって分かりやすい説明を行うことができて、児童がスムーズに活動に参加できた。

オンラインでの学習方法の工夫

同時双方向型のオンライン学習にオンデマンド型の動画配信を組み合わせることで、児童・生徒は学習の中で教員とやり取りしたり、自身の理解度に応じて動画を見直したりすることができます。

動画視聴と課題提出を取り入れた同時双方向型のオンライン学習 (高校2年生 英語)

①教員は、学習開始時に、**本時の目標と学習の流れ**を**同時双方向型のオンライン**で一斉に説明する。



【実践時の工夫】

学習支援サービスの機能を活用し、本時の学習の進め方を生徒に提示する。

②児童・生徒は、各自で**オンデマンド動画を視聴**し、**課題や問題演習**に取り組む。

※動画を見直しながら演習を行う。

※質問は、投稿機能やオンラインで行う。



【実践時の工夫】

学習支援サービス上に教員が事前に作成した動画を、生徒は学習が始まってから視聴する。

③教員は、**同時双方向型のオンライン**で一斉に**本時のまとめ**を行う。



【実践時の工夫】

学習支援サービスの機能を活用して学習のまとめを行い、生徒は教科書本文を読んだ音声データ、オンライン授業の感想等の課題を提出する。

【実践の成果】

生徒からは、動画を見返すことができ理解しやすかったこと、同時双方向型の授業で教員とのやり取りがあるため対面授業との差は少なく感じたことなどの感想が出て、充実したオンライン学習となった。

ブレイクアウトルームを活用することで、オンライン学習でも児童・生徒が**グループで活動して、意見や考えを共有したり、整理してまとめたり**することができます。

グループ活動を取り入れたオンライン学習（高校2年生 英語）

①教員は、授業の最初に、画面共有で資料と**課題を提示**する。

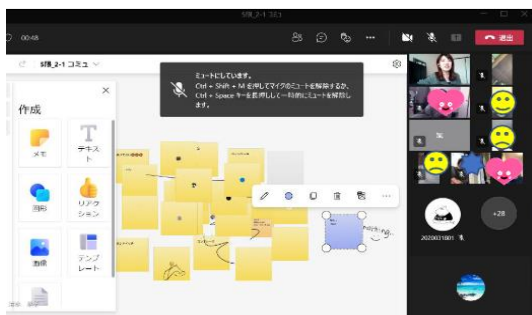


【実践時の工夫】

学習支援サービスの機能を活用し、本時の課題を生徒に提示する。

②児童・生徒は、**ブレイクアウトルーム**でグループに分かれ、**意見や考えを整理してまとめる**。

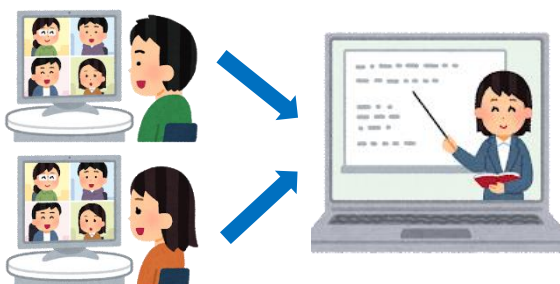
③児童・生徒は、全体のルームに戻って**グループごとに発表**する（ホワイトボード機能なども活用する）。



【実践時の工夫】

ブレイクアウトルームでグループに分かれ、グループ内で役割を決めて課題について話し合いを行う。話し合った結果はホワイトボード機能で付箋を使って書き込むなどして整理を行い、全体で発表する。

④教員は、各グループの発表に対して解説や補足説明を行い、学習のまとめを行う。



【実践時の工夫】

グループごとに発表された内容を、教員が集約する。

【実践の成果】

ブレイクアウトルームの中では声を出して人と話せる環境のため、生徒はマイクオフのオンライン学習よりも活動に集中することができて、対面授業と同等の話し合い活動となった。その結果、オンライン授業でも対面授業のようなグループワークを実現できた。

教室での授業に自宅にいる児童・生徒も参加する際の工夫

分散登校や感染症対策で自宅学習を実施する児童・生徒に対して、教室での**授業をライブ配信する方法や授業の形態を工夫**することで、**教室と同じような学習環境で自宅での学習**を行うことができます。

教室にいる児童と自宅にいる児童のグループ学習（小学1年生 国語）

①教員は、授業開始前に、**板書撮影用と資料共有用の2台の端末を用意**する。

板書撮影用端末：カメラとマイクを接続して黒板を撮影する。

資料共有用端末：プロジェクタで資料をスクリーンに投影する。

自宅から参加する児童・生徒も資料を確認できるように**画面共有**を行う。



【実践時の工夫】

教室にいる児童にはスライドをプロジェクタで投影し、自宅にいる児童にはスライドの画面共有を行う。

2台の端末を用意することが難しいため、教員は1台の端末を使って板書の映像とスライドの切り替えを行い、自宅にいる児童が板書も見られるようにする。

②教員は、授業開始時に、板書撮影用端末でオンライン会議を開始する。

③教員は、**板書を活用して授業**を進め、資料の解説を行う際には、**資料共有用端末で画面共有している資料に書き込み**をする。

教室内の児童・生徒は、板書での説明と、プロジェクタで投影された資料を見ながら学習を進める。自宅の児童・生徒は、カメラで撮影された板書と、画面共有された資料を見ながら学習を進める。



【実践時の工夫】

教員は端末と板書を活用して授業を行う。教室にいる児童と自宅にいる児童のどちらも同じ活動ができるよう、画面を切り替えながら説明する。



【実践時の工夫】

学習支援サービス上でグループに分かれ、ホワイトボード機能を使用したグループ学習を行う。グループには教室にいる児童と自宅にいる児童の両方が参加する。

【実践の成果】

自宅にいる児童が教室での活動を見ているだけでなく、同じ活動に参加することができた。

【事例協力】

町田市立南つくし野小学校 西東京市立明保中学校 東京都立板橋有徳高等学校 東京都立両国高等学校 東京都立府中西高等学校